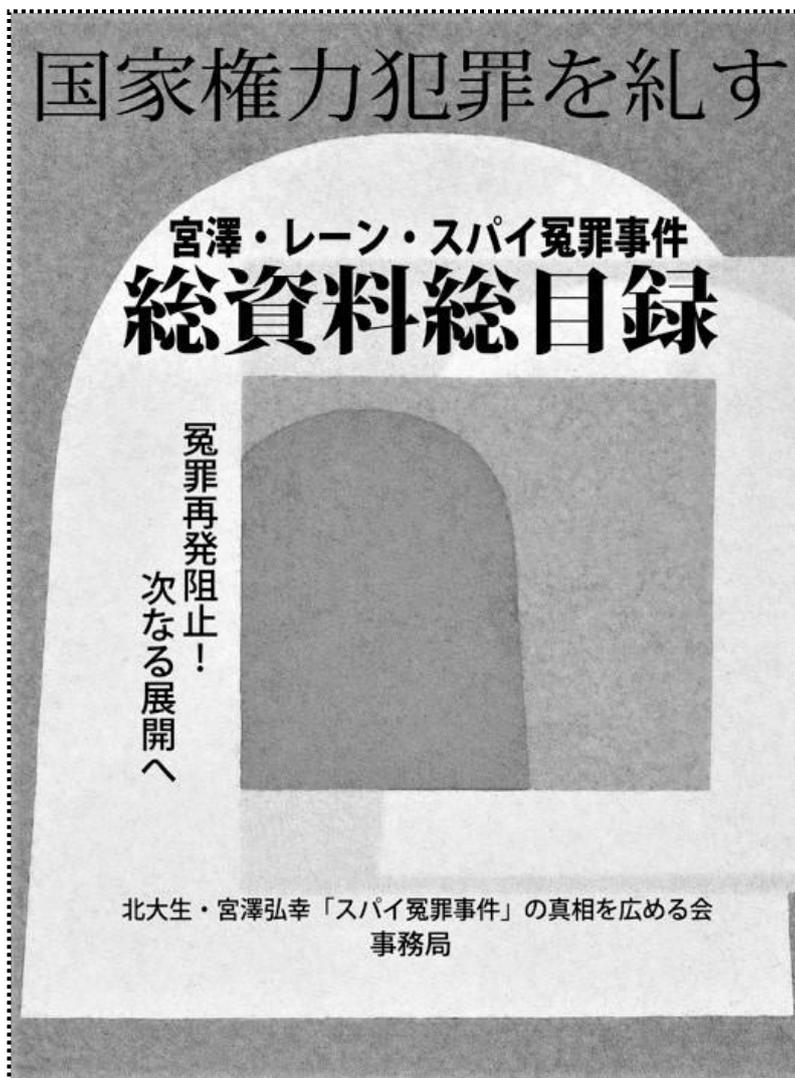


宮澤・レーン・スパイ冤罪事件『総資料総目録』完成

冤罪再発阻止！ 次なる展開へ 活用を



「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」にかかる『総資料総目録』の編纂がなり、刊行のはこびとなりました。運動の次なる展開にむけ、ご活用を願っております。

本件の真相を究め、また編纂の過程で改めて思い知らされたのは、国家権力はその犯罪行為のみならず、その痕跡までも徹底して隠蔽し破棄したという事実です。社会の進歩・発展には、そこに至る正と負の要因があり、二つながら究めることの大事は世界の歴史において自明であるにも関わらず、です。

時あたかも、安倍政権の暴走が、平和を否定し、すべての国民を谷底にまで落とし込む憲法 9 条の完全否定に至る局面へと向かっています。同時にその悪性の姿勢は卑怯極まりません。平然と嘘をつき、傲慢に満ち、責任を他になすりつけ、さらに自らの悪行を徹底隠蔽しようとしています。

そこには、国民の信託を受けた政府として、政治・行政の活動すべてを記録し、歴史の審判に付すという態度は微塵もありません。そうした現実への危機感から、本書は、本会発足以来 5 年間で知り得た事実の全てを記録すべく努めました。

本書は、全て事務局の責任において発行しました。ご一読の上、私どもの未だ知る

に至っていない事実、また誤認、誤解、半解があるならば、誠にお手数おかけしますが、上記題字横記載の事務局宛に、手紙・FAX・メールで、ご指摘頂きたくお願い致します。

本書が、「冤罪再発阻止！ 次なる展開へ」、そして安倍政権暴走阻止の闘いに、寄与することができればと切に願っています。そこで全文を本会ホームページにPDFでアップしています。全文とともに目次の項目別ファイルもあります。そこでご覧いただくか、コピーしてご活用ください。<http://miyazawa-lane.com/>

本書は限定出版のため、広く販売できませんが、まだ少し在庫があります。ご希望の方は、事務局までFAXかメールでお問い合わせください。
(事務局)

宮澤弘幸顕彰・追悼墓参のみなさまへの呼びかけ

スパイ冤罪弾圧と闘い抜いて、71年前の1947年2月22日、27年の生涯を閉じた宮澤弘幸を顕彰・追悼するために墓参されたみなさま、ご苦労さまです。

いま、安倍政権は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」との崇高な前文を持つ憲法を真っ向から否定し、すべての国民に犠牲を強いる戦争への道を強制すべく、憲法9条を完全骨抜きにしようと露骨に策しています。かつその政治姿勢は、どこまでも傲慢で、卑怯きわまりません。

われわれは、宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の真相を究め、広める活動を通じて、国民弾圧と隠蔽をセツトにして暴走する政治の墮ち行く先が「戦争」であり、畏に嵌められた宮澤弘幸ら犠牲者の累々無念の死であることを思い知らされました。

同時に、誇り高き建学の精神を持ちながら、宮澤弘幸・レーン夫妻らを守り、戦争への道に抗うこと微塵もなく、さらに戦後もその解明と総括を怠ってきた北

海道大学当局の責任追及をも迫ってきました。

しかしながら、特定秘密保護法（2013年）、集団的自衛権行使の閣議決定（2014年）、戦争法（2015年）、共謀罪法（2017年）等々の成立を許してしまいました。北大当局は、言葉の上では、学徒・宮澤弘幸へのスパイ弾圧が冤罪であったことを認めたものの、再び冤罪を引き起こさせない決意は伝わってきません。

その上、戦後73年を経た今なお、日本は安保条約・地位協定・日米合同委員会によって「アメリカ軍の占領下」にあり、軍事的にはアメリカに従属しているという現実を組み敷かれています。

「戦争への道」を進む勢力にとって、最大の壁が「憲法9条」であるならば、その現憲法をこそ高々と掲げ、平和・いのち・暮らしを守り、世界平和実現へのカギである核兵器禁止条約への参加・批准を為す政府を樹立する道へと強い気概をもって進むべき時です。

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会・事務局



宮澤弘幸顕彰・追悼墓参と北大OB・OGのつどい開く

氷雨ばらつく2月22日、新宿・常圓寺で宮澤弘幸顕彰・追悼墓参を行いました。その後、同寺内にて「宮澤・レーン事件を忘れない！北大・戦後世代をつなぐOB・OGのつどい」が開かれ約60人が参加しました。

札幌の「宮澤・レーン事件を考える会」代表・山本玉樹さんが開会挨拶、続いて山野井孝有さんが、コロラド州ボルダーで健在の宮澤弘幸の妹・秋間美江子さん（91歳）から寄せられたメッセージを紹介しました。

基調講演は、宮田汎・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟北海道本部会長の「治安維持法などによる北大等道内学生への弾圧諸事件」。徹底調査によって明らかにされた北海道での弾圧事件は、1928年から1944年にかけて宮澤・レーン事件を含めて14件もあります。

北大社研解散、北大中国留学生事件、北大朝鮮人学生社研事件、小樽高商社会科学研究会事件等は、当時の治安維持法下で多くの北海道の学生たちが、思想言論の自由と反戦平和のために活動していた証しです。

治安維持法犠牲者国賠同盟が、こうした弾圧事件を掘り起こして広く知らせ、国家権力による犯罪を徹底糾弾し、国家による賠償責任を果たすよう求めていることは極めて意義あることだと思います。宮澤・レーン・スパイ冤罪事件もその一環であることを再確認させられた講演でした。

在京の北大OB・OGのみなさんが、毎年この日に集いを開催していることは意義ある行動だと思います。事務局も連帯していきます。（福島 清）

櫻井よしこ氏らの「捏造、事実のねじ曲げ」糾弾

喜多義憲・「北海道新聞」元ソウル特派員が証言 植村裁判札幌訴訟・第 10 回口頭弁論

2月16日、札幌訴訟第10回口頭弁論は札幌地裁805号法廷で午後1時30分、開廷されました。この日は裁判所がただ一人認めた本人以外の証人として原告側の喜多義憲氏が立つとあって、傍聴席71に対し希望者は110人が抽選に臨み、かつてない緊張感が漂う開廷前の混雑となっていました。

法廷でも弁護団席は30人を超す熱気と緊張感が漂い、その中でも喜多証人が冷静さを保っているのが際立っていました。被告代理人席には弁護士ら6人が反対尋問を構えていました。

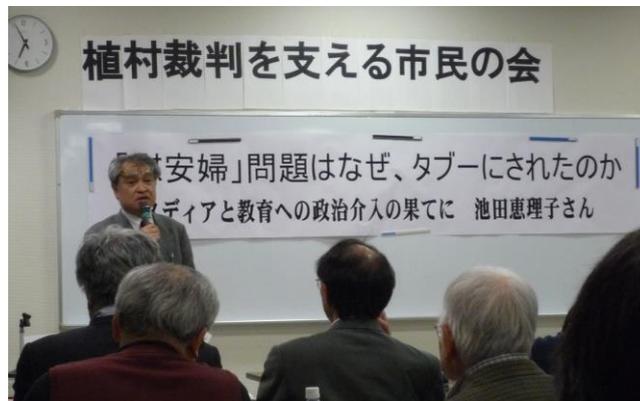
審理は植村弁護団の秀嶋ゆかり、伊藤絢子両弁護士による主尋問から始まり、陳述書にある金学順さんへの取材と記事内容について、確認する質問が軸となりました。喜多氏は、植村氏と同時期にソウル支局に特派員として駐在していたこと。91年8月慰安婦問題取材の中で、初めて名乗り出た金学順さんから単独インタビューし、それが「北海道新聞」に大きく報道されたこと。当時は植村さんと面識なく、朝日新聞大阪版に同様の記事が掲載されていたことも知らなかったこと。しかし、数日の違いで慰安婦問題にかかる記事が朝日と道新で同時進行していたのは紛れもない事実であること。にもかかわらず、朝日の記事が捏造記事だと攻撃を受け、道新のスcoop記事は不問になっている——などと証言、被告側の対応の矛盾、植村さんへの狙い撃ちの様相が強いことを明らかにしました。

また「この状況に、私は違うよと言いたかった」「つい最近、記憶を呼び戻そうと思い韓国に行ってきましたが、金学順さんが私に、ちゃんと本当のことを言うんだよ、と言っているような気がした」と心境を語っていたのも印象に残りました。

喜多氏が法廷に出した陳述書でも、自身の取材体験と慰安婦問題をめぐる当時の韓国の状況を詳細に説明し、植村氏の記事について「捏造した」「故意にねじまげた」などと断じるのは、偏見のかかった言いがかりに過ぎないと被告側の対応を強く指弾しています。

また、被告・櫻井よしこ氏に対しては、理不尽な糾弾を続けた結果、ネット右翼らによって中世の魔女狩りのような攻撃が植村氏と家族に加えられた。その責任は重大と批判しています。

櫻井氏側弁護団の反対尋問は延々50分に及びましたが、取材の経緯、記事の微細な部分にこだわる質問が多く、また人名の取り違えもあり喜多氏が語気を強めて応答したり、植村弁護団から急遽、異議が差し込まれる場面もありました。



報告集会で決意表明する植村隆さん

次いでワック代理人は喜多氏とは関係のない「吉田清治証言」について質問、原告弁護団に質問を封じられたり、元・日本軍慰安婦を侮蔑する差別表現までもありました。「挺身隊」の意味や捉え方が日本と韓国では違うことについても「日本ではトラなのに韓国ではライオンという」などと珍妙な比喻を繰り返し、傍聴席の怒りと失笑をかっていました。

結果、喜多氏の新聞記者としての姿勢と植村弁護団の援護が鮮明となり、胸のすく法廷となり、午後3時40分閉廷しました。次回は3月23日で、植村隆、櫻井よしこ両氏への本人尋問が行われます。

「慰安婦」問題はなぜタブーにされたのか

元NHKディレクター「女たちの戦争と平和資料館」館長・池田恵理子さんが講演

植村隆さん第10回口頭弁論報告会は午後6時30分からエルプラザ4階大研修室で開かれました。会場には植村裁判傍聴券抽選で不運にも傍聴できなかった支持者や、東京で活躍中の池田恵理子さんの講演を聞く参加者で超満員の混みようで、立って聴く参加者も多数いました。

講演時間は1時間30分。以下5点のテーマで小分けしたプリントが配布され、これに基づいての講演は非常にわかりやすく「慰安婦」のもつ問題点が明らかになりました。

- 半世紀以上隠されてきた「慰安婦問題」
- 「慰安婦」問題は1991年、被害者の名乗りから始まった

- 1997年から「慰安婦」報道への規制強化
- 安倍首相が進めてきた報道支配と世論誘導
- 「日韓合意」では「慰安婦」問題の解決にはならない。



以上のテーマをもとに「権力に対する人間の闘いと
は、忘却に対する記憶の戦いに他ならない」(ミラン・
クンデラ)といわれるが、日本軍「慰安婦」問題をめぐ
っては、敗戦後70年が経っても“記憶をめぐる闘い”
が続いている。被害者が名乗り出て四半世紀も経ち、
2015年末に日韓両政府は「合意」が成立したとして「慰
安婦」問題の「最終的・不可逆的解決」を宣言したが
被害者を無視した解決策は世論も強く反発、「少女像」
は韓国国内65ヵ所、海外15ヵ所と広がりを見せ「慰
安婦」問題はますますこじれているのが実態だと提起
しました。

さらに、「慰安婦」は性奴隷であり、女性への人権侵
害で重大な戦争犯罪であることは世界中が知っている。
ところが権力を監視するメディアには委縮し自己規制
がはびこり、政権の後追いと同調に明け暮れている。
とりわけ安倍首相による人事介入まで受けたNHKの
「政府の広報機関」化は目を覆うばかりであるとし、
歴史を紐解きながら「慰安婦」問題に真正面から取り
組んでいくと結びました。(根岸正和)

植村裁判東京訴訟 第11回口頭弁論

1月31日午後3時30分から東京地裁103号法廷で
開かれ、植村弁護団の穂積剛弁護士が第10準備書面の
骨子を朗読した。植村弁護団はこれまで、西岡力氏が
植村さんの記事を捏造だと攻撃してきた根拠がないこ
とを繰り返し主張してきた。

この日も、西岡氏捏造だとする根拠はすべて真実で
はないことを具体的に指摘した。その上で西岡氏はそ
れを知りながら何としても植村さんを捏造記者として
攻撃することだけが目的であるとしか考えられないと
主張した。次回は4月25日午後3時30分から。

参院議員会館で開かれた報告集会では、望月衣塑
子・東京新聞社会部記者が「記者への攻撃と報道の自
由」について講演した。(福島 清)

<コラム> 冤罪忘れるな! ㊶

国家権力冤罪の主犯

内相兼務の首相・東條英機

1941年10月、戦争内閣の首班となった東條英機は
陸相と併せ国内治安重視の持論から内相も兼務、独裁
の基盤を敷いた。対米英蘭開戦を決めた同年12月1
日の御前会議(天皇臨席の政府・軍首脳会議)では内
相として所管事項を報告、この中には当然ながら外謀
容疑者(スパイ)一斉検挙を含む「戦時特別措置」が
あり、よって国家権力冤罪の引き金を引いた。



1943年10月21日、雨降る神宮外苑競技場での出
陣学徒壮行会。敗色濃くなる中、東條英機は首相
として学生たちに出陣=死を強要した

東條は、陸軍中将・英教の長男として生まれ、士官
学校から陸軍大学を出た生粋の職業軍人。というより
軍官僚として頭角を現し、1940年7月中将で陸相とな
り、一貫して対米英蘭開戦を主張して近衛内閣を潰し
戦争内閣を組織した。しかし戦況暗転と共に求心力を
失い敗戦前年の7月に失墜。戦後、戦勝国による裁判
に引き出され「侵略戦争の謀議と実行」の罪で処刑さ
れた。だが冤罪・弾圧の罪は今も裁かれていない。

◆ ◆ ◆
「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版(本会編)
『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部=冤罪の真相、第2部=冤罪事実の条条検証 資料
編=判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付=重要事項索引(別冊)

申し込みはFAX・メールで本会事務局まで(1面上部題字横
に掲載)。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】1面で紹介した「総資料総目録」は、
本会結成以来5年間の活動のすべてを網羅しています。
資料としての正確さを徹底的に追究した大住広人さん
の執念です。同時に運動のきっかけと展開のダイナミ
ズム、運動の限界の自己分析も率直に提起しています。
本書で紹介した上田誠吉弁護士、秋間浩さん、山野井
孝有さんの問題意識と行動は、戦争の拒否へと行き着
きます。その意味で、安倍壊憲阻止のために、活用し
て欲しいと思います。(福島 清)